長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

【基本目標１】　長野県民の歴史遺産を未来に継承するための取組を進めます

［取組1-1］考古資料・歴史的価値を有する文書・その他歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
史資料の収集・整理	○長野県の歴史を明らかにするために必要な史資料を収集・整理します。 ○当館が公文書館の機能を有し、公文書管理条例が制定されることから、歴史公文書等の収集を適切に行うよう取り組みを強化します。	○文献史料の収集・整理 ・特定歴史公文書の受け入れ ・特定歴史公文書、県報、行政資料、新規収蔵文書の整理、登録、配架(2,400点) ・県報、行政資料の公開（年間約300冊）	・特定歴史公文書の受け入れ 2,341点、行政資料225冊、県報117件、近現代資料4件収集 ・整理した特定歴史公文書2,227冊、行政資料200冊 ・県報8件(124冊)、行政資料267冊を公開 ・2022年度受け入れ分の公開・非公開判定会議実施（8月30日） ・特定歴史公文書公開（2022年度受け入れ分）1,224冊	a	B	・R5から会計年度任用職員1名が増員され、特定歴史公文書の整理作業の促進を図っている。	○文献史料の収集・整理 ・特定歴史公文書の受け入れ ・特定歴史公文書、県報、行政資料、新規収蔵文書の整理、登録、配架（2,400点） ・県報、行政資料の公開（年間約300冊）	・受け入れ決定された資料についてはできるだけ早期に受け入れできるように体制を作ってほしいとの意見あり（公文書審議会）
		○現代史料 未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理（500点） 戦後史の聞き取りの実施（3人）	・未整理現代史料等の整理 長野県連合青年団資料（追加分）など9件3,885点の現代史料整理、保存、公開 長野県史写真フィルム（35mm）の洗浄、複製製作（継続事業）　諏訪504本 ・戦後史聞き取り調査3人	a		・計画的に聞き取り調査を実施する。	○現代史料 未整理近現代史料・県報・県史写真版資料等の整理（3,000点） 戦後史の聞き取りの実施（3人）	
		○古文書 新規史料の収集 未整理史料の整理を進める（年度内15,000点）	・新規史料の収集　飯沼家文書など15件1,656点 ・未整理史料の整理　8,580点（ボランティアによる整理含む） ・クラウドファンディングによる外部資金導入を図った	c			○古文書 新規史料の収集 未整理史料の整理を進める（年度内10,000点）	・ボランティアの活動状況・人事異動などの影響で整理数が減少（職員）。 ・県内の公文書館や教育委員会等文化財担当者とのネットワークで資料収集を進めてほしい（講習会参加者）
		○考古資料の収集・整理 ・所蔵考古資料の整理と収納 発掘調査報告書別、寄贈者別に所蔵品(遺物、記録図面、写真所見等)の棚卸しを行い、適切な閲覧(調査研究)ができるよう再整理し、再収納する。（年度内1,000箱） ・県宝追加指定・重要文化財指定に向けた屋代遺跡群出土木製品の整理 ○写真資料等の保存（R7年度終了予定） 報告書掲載写真フィルムのデジタル化 中判6×7フィルム 2,000枚、35mmフィルム1,000枚	・所蔵資料の棚卸と箱ラベル貼替え　1100箱 ・写真資料の保存（デジタル化）　3375枚	a		・写真資料のデジタル化は、R5から国庫補助事業を活用し、会計年度任用職員1名増員により、スピードアップを図っている。	○考古資料の収集・整理 ・所蔵考古資料の整理と収納 寄贈資料については大部分が未整理であることから整理の基礎となる遺物台帳作成の必要が急務であり、今年度から優先して実施する。（年度内60箱） ・県宝追加指定・重要文化財指定に向けた屋代遺跡群出土木製品の整理 ○写真資料等の保存（R7年度終了予定） 報告書掲載写真フィルムのデジタル化 3000枚	
史資料の保存	収集・整理した史資料に対し、必要に応じて適切な保存処理・修復を行い、適切な環境で保存します。 また史資料の滅失、県外への流出・散逸を防ぐため必要な保存措置を講じ、重要な流出資料については購入するなど、特別の配慮を払います。	○考古資料の保存処理 ・所蔵木製品の保存処理（R21年度終了とする処理計画を策定） PEG及びトレハロースを使用した保存処理（濃度アップ、樹脂塗布等処理）（324点） ・所蔵金属器、骨角製品等の保存処理 収蔵金属器の劣化状況に応じた処理・再処理を推進(55点) ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理、市町村の保存処理に対する技術指導・支援	・所蔵木製品の保存処理（PEG処理・トレハロース処理）：処理完了307点、処理開始150点 ・金属器保存処理　90点（クリーニング等30点、脱塩処理30点、仕上げ30点） ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理、市町村の保存処理に対する技術指導・支援　4件	a	A	・引き続き国庫補助事業を活用するとともに、R5から会計年度任用職員を２名増員し、年間処理点数の大幅引き上げを図っている。	○考古資料の保存処理 ・所蔵木製品の保存処理（R21年度終了とする処理計画） PEG及びトレハロースを使用した保存処理（処理開始1090点、処理完了154点） ・所蔵金属器、骨角製品等の保存処理 収蔵金属器の劣化状況に応じた処理・再処理を推進(60点) ・長野県埋蔵文化財センターの応急的保存処理、市町村の保存処理に対する技術指導・支援	
史資料の調査研究	○長野県の歴史を明らかにするために、収集・整理した史資料に関する調査研究を行い、史資料を県民のかけがえのない文化財・歴史遺産として位置づけ、その歴史的価値を明らかにします。 ○展示や普及活動を円滑に進めるためにも、館蔵史資料以外の県内外文化財の調査研究を行います。 ○後世に伝えるために史資料の情報収集、所在や現状把握に務めます。	○考古資料の科学分析 ・所蔵資料の蛍光X線分析・X線透過観察等の科学分析を行い、研究成果を蓄積。市町村からの分析依頼に対し可能な範囲で対応	・市町村等からの金属製品のX線透過観察・赤外線観察の依頼に関しては、調整の上で100%対応(5件)	a	B		○考古資料の科学分析 ・所蔵資料の蛍光X線分析・X線透過観察等の科学分析を行い、研究成果を蓄積。市町村等からの分析依頼に対し可能な範囲で対応	求めた情報以上のこともわかり助かった。
		○R6年度企画展の資料調査 ・企画展「朝日将軍義仲」「川中島合戦」「佐久間象山」(仮称)の実施設計の作成 ・上記企画展の資料調査の実施 ・収集史料を位置づけ公開する企画展の立案	R6企画展「疾風怒濤　木曽義仲」「描かれた川中島合戦」「佐久間象山の遺墨」の実施設計の作成	a		・より魅力的な企画展を目指す	○R7年度企画展の資料調査 ・企画展「安曇野展」「木製祭祀具展」「小菅展」(仮称)の実施設計の作成 ・上記企画展の資料調査の実施 ・収集史料を位置づけ公開する企画展の立案	
		○職員の調査研究の推進 ・学芸研究会等における調査研究発表の実施 ・研究雑誌、研究紀要等への研究論文の掲載　10論文以上 ・館内における「時代別研究会」の充実 各時代とも年間6回以上の開催	・学芸研究会9回実施、15人発表 ・研究紀要第30号発刊、7論文掲載 ・「時代別研究会」をすべての時代で6回以上開催	b			○職員の調査研究の推進 ・学芸研究会等における調査研究発表の実施 ・研究雑誌、研究紀要等への研究論文の掲載　10論文以上 ・館内における「時代別研究会」の充実 各時代とも年間6回以上の開催	

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

[取組1-2]　史資料の保護(保存・活用)に取り組むとともに、保護思想を啓発します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
文化財の保護（保存・活用）	○市町村、県、国の指定文化財等について、県立の文化財公開機関としての役割を果たします。	○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける ・当館所蔵文化財借用依頼への対応 ・史資料の保存に関する調査研究を進めその成果を公開 ・災害による被災文化財レスキューに対応 ・県や市町村の文化財保護審議会では歴史館職員の知見を活かし、的確な助言を行う	・2023年所蔵品展「至宝の名品－学芸員のイチオシ　古文書編－」で、重要文化財１件[鳥羽院庁下文]、と長野県宝２件[15号国符木簡・114号郡符木簡（千曲市屋代遺跡群）]を公開 ・2024年所蔵品展「至宝の名品－学芸員のイチオシ　近現代歴史資料編－」で、県宝14件[清水家文書]、[行政文書]を公開	a	A		○県立の文化財公開機関として、企画展等において指定文化財を展示・公開 ・市町村、県、国の指定文化財の展示機会を設ける ・当館所蔵文化財借用依頼への対応 ・史資料の保存に関する調査研究を進めその成果を公開 ・災害による被災文化財レスキューに対応 ・県や市町村の文化財保護審議会では歴史館職員の知見を活かし、的確な助言を行う	・重要文化財、県宝が予想以上の多さに感動です。 ・六角宝幢や丸木舟の復元（複製）は大変な作業ですね。 ・教科書で見る文字や写真よりも復元された資料を見ることでより新鮮で良かった。 ・レプリカなどの再現度がすごかった。
史料保存に関する講習会、研修会の実施	○県立博物館・文書館・文化財保存修復機関・研究機関として市町村・県内博物館等への支援、助言を行います。	○文献史料保存活用講習会の開催 ・3回開催　参加者延べ60人	・3回開催 参加者数117人 ・資料修復工房見学研修会1回開催　参加者数13人	a	A		○文献史料保存活用講習会の開催 ・4回開催　参加者延べ120人	・修復工房を見学できてよかった ・信濃史学会との共催で初めて講習会を行ったのは新しい試み。
		○考古資料保存技術講習会の開催 ・2回程度開催	・2回開催　参加者数24人	a		受講の機会を増やすために同じ内容で日にちを変えておこなった。	○考古資料保存技術講習会の開催 ・2回程度開催	2回に実施日を分けたことで都合がつけやすく参加しやすくなった。 X線透過観察画像読影というこれまで聞く機会がなかったテーマについて研修出来てよかった。
		○防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進	・2024年年頭の能登半島地震後に県博物館協議会や県史料保存連絡協議会等のネットワークを活用して被害の有無等の情報を収集	a			○防災・災害の対応 ・事例研究や他県の体制・対応を参考に研究を推進	・能登半島地震対応のため史料保存活用連絡協議会において災害対策費を増額して計上した。
考古資料に関する市町村への支援	○考古資料の保護、発掘調査・研究、研修などに関した支援を行います。	○資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・依頼事項の80%以上	・資料の保存等に関する依頼事項に100%対応	a	A		○資料の保存等に関する市町村への協力・支援 ・依頼事項の80%以上	・具体的な被災事例はないが、史料保存活用連絡協議会および歴史館資料調査委員会での話題として共有できてよかった（理事および委員談）
		○考古資料の保護等に関わる市町村への協力・支援 ・遺跡や遺物の保護、発掘調査等を学術面から支援（依頼に応じて対応） ・考古資料（遺跡・遺物）に関わる研究や研修（講演等含む）に対し協力・支援（依頼に応じて対応）	・市町村等からの遺物保存等に関する相談に対応・支援18件（100%）	a			○考古資料の保護等に関わる市町村への協力・支援 ・遺跡や遺物の保護、発掘調査等を学術面から支援（依頼に応じて対応） ・考古資料（遺跡・遺物）に関わる研究や研修（講演等含む）に対し協力・支援（依頼に応じて対応）	・県内では他に相談できるところがないため心強い。（市町村担当者）
公文書等の保存・活用に関する県・市町村等への支援	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援します。	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援・啓発を行う	・県内市町村からの公文書等の保存・活用についての問い合わせに対応（100%）	a	A	・実際の整理方法などの啓発の必要性	○県、市町村等へ公文書等の保存・活用について支援・啓発を行う	・公文書館同士の連携を深めていきたい（公文書館職員）

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

【基本目標２】　未来を映す歴史知識の泉、歴史学習の拠点としての役割を果たします

［取組2-1］　長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
常設展示の充実	○定期的な展示替えや新展示をするなど展示の改善を図り、総合調査の成果を生かした総合展示を実現します。	○常設展示の工夫 ・満足度　80%以上 ・企画展と関連した部分展示を計画して相乗効果を図る ・関係機関(市町村教委、県内外博物館、信州大学等)との連携 ・新型コロナ感染症の動向を見ながら、体験型展示を再開する	・観覧者数 24,495人 満足度 95% （R4 25,689人 前年比95.4% R3 25,831人） ・関係機関との連携を図り　千曲市教育委員会から資料借用、十日町市立博物館とは昨年に続き資料の相互貸借を行った。県埋蔵文化財センター製作の「縄文カード」を配布し、これに関連する資料を展示公開した。 ・縄文住居内の立ち入りを再開した。	a	A	・コロナ感染症の緩和により体験型展示を再開、安全面に配慮した公開を図る。	○常設展示の工夫 ・満足度　80%以上 ・新テーマ展示を時代別に検討し、実現化に向けて取り組む。 ・関係機関(市町村教委、県内外博物館、信州大学等)との連携強化	・ナウマンゾウの復元展示は面白い、特徴がよく解る。 ・縄文住居や六工社などの復元展示は楽しい。 ・いつ来ても勉強になる。 ・平安時代や近現代など、復元展示を増やして欲しい。
		○展示情報の発信 ・YouTubeやSNSを活用し、展示資料の紹介や展示解説動画などの作成に取り組む	・X（旧Twitter）で情報発信（常設展示に関する内容25回） ・展示解説動画を作成し、エントランスで使用。	a			○展示情報の発信 ・開館30周年に際してYouTubeやSNSを活用し、館の情報や展示資料について広く発信できるよう努める。	
企画展示の充実	○県民のニーズに沿った企画展を実施するとともに、企画展示の充実を進めます。 ○理想的な環境で文化財を公開できるように環境整備を行い、企画展示室のリニューアルを実現します。	○企画展示の充実 ・満足度（来場者アンケート：大いに満足、満足）80%以上	・総観覧者数 16,847人満足度 92.53% （R4 18,929人前年度比88.4% R3 22,162人）	a	A		○企画展示の充実 ・満足度（来場者アンケート：大いに満足、満足）80%以上	
		・所蔵品展「至宝の名品　学芸員のイチオシ古文書編」（3/18～5/28）	・所蔵品展「至宝の名品　学芸員のイチオシ古文書編」（3/18～5/28、年度内4/1～5/28） 5,340人 満足度93.7%	a		・キャプションの文字の大きさについては、改善に努める	・所蔵品展「至宝の名品　学芸員のイチオシ近現代歴史資料編」（3/23～6/16）	・県内の発掘品を幅広く見ることができ、長野県のおもしろさを再確認した。 ・人骨が出土した状態で展示してあり、びっくりした。 ・説明がしっかりあってわかりやすかった。 ・キャプションの文字を大きくしてほしい。 ・発掘場所を現在の地名で表示してほしい。 ・石器を様々な角度から見たい。
		・夏季企画展「主張する古墳～新たなシナノの古墳時代像～」(7/1～8/20)	・夏季企画展「主張する古墳～新たなシナノの古墳時代像～」(7/1～8/20) 44日 4,936人 満足度93.9%	a			・夏季企画展「疾風怒濤 木曽義仲～文書と絵画でみる義仲の一生～」(7/13～8/25)	
		・秋季企画展「信州やきもの紀行～江戸から明治へ～」(10/7～11/26)	・秋季企画展「信州やきもの紀行～江戸から明治へ～」（10/7～11/26）開館日数：44日間　来場者：4,185人 満足度：92.7%	a		・可能なものは会期中に補助パネルを追加したが、基本的に資料を見ていただくことを重視したため、全体的にパネルの枚数は少なかった。	・秋季企画展「描かれた川中島合戦～屏風・錦絵にみる戦の世界」2024年10月12日（土）～11月24日（日）	・全県域から集められていて、広い視野をもてた。 ・長野県内各地で焼かれていたことろそのちがいに興味を持った。 ・伝統的な工芸品を見れてよかったし、懐かしさを感じた。　・企画展では木曽の遺物などが抜けていたことが続いたのでほっとした。
		・冬季企画展「和田英～糸づくりに懸けた明治の女性」(1/13～2/25)	・冬季企画展「和田英～糸づくりに懸けた明治の女性」 2024.1/13～2/25　38日間　総観覧者数2,478人　満足度約90%	a		・「書状、書簡の釈文を置いてほしい」との意見もあり	・冬季企画展「佐久間象山遺墨展～書は人なり～」 2025年1月11日（土）～2月24日（月・祝）	「富岡日記などの実物を見ることができてよかった」 「明治の女性たちの生き様や気骨を感じられてよかった」 「明治の製糸業についてより深く知ることができてよかった」
		・所蔵品展「歴史資料編」（3/23～）	・所蔵品展「学芸員のイチオシ　近現代歴史資料編」（3/23～6/16,86日）うち3/23～3/31 565人	a			・所蔵品展「原始　～開館30年の成果展～」（3/15～6/15）	
		・YouTubeやSNSにより、解説動画・情報等を発信するとともに、発信内容の品質向上に努める。	・Twitterにおける情報発信回数 所蔵品展14回、夏季企画展19回、秋季企画展19回、冬季企画展21回、所蔵品展2回	a		・定期的にＸの発信を行った。 ・すでに公開している動画の内容を検討した。	・YouTubeやSNSにより、解説動画・情報等を発信するとともに、発信内容の品質向上に努める。	
		○ミニ展示の開催 ・小展示室を、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示、パネル展示などで活用 ○小展示室を映像視聴用に利用することも考えていく	・R4～5所蔵品展「埋蔵文化財センター速報展」 ・夏季企画展：「4県連携　発掘が語る地域交流」 ・秋季企画展：「やきものの製作工程と窯跡の出土品」 ・冬季企画展：「当館蔵シルクラベル大公開！」開催 ・R5～6所蔵品展：「雑誌創刊号コレクション」	a		・映像資料を視聴するため、小展示室の利用を促進する。	○第２展示室の活用 ・小展示室を、館蔵品を使った企画展関連展示や、新収蔵品の紹介展示、パネル展示などで活用 ○映像視聴用に利用する	

長野県立歴史館中長期目標（2020-2029年）に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
専門分野の協力による総合調査の実施	○考古資料、文献史料、総合情報専門性を総合して館外研究者等の協力による長野県の歴史に関する総合的研究を行います	○総合研究の成果を企画展時に活かす ・総合研究を結集した所蔵品展の実施	・総合研究の成果として所蔵品展「至宝の名品ー近現代歴史資料編」を実施	a	A		○総合研究の成果を企画展時に活かす ・総合研究を結集した所蔵品展の実施	
県内外の研究団体、研究者等と協力した調査研究の実施	○県内外の地方史研究団体、郷土史・地方史研究者、市町村教育委員会、博物館、大学等と協力した調査研究を実施します。	○安曇野研究会の立ち上げ R7夏季企画展（安曇野に関する展示）に向けて、安曇野に関する研究者の研究の成果を交流する。	・立ち上げのための準備を進めた	b	B		○安曇野研究会の立ち上げ R7夏季企画展（安曇野に関する展示）に向けて、安曇野に関する研究者の研究の成果を交流する。	
		○館設定研究テーマの調査・研究 ・長野県行政文書研究会 長野県宝に指定されている当館所蔵特定歴史公文書の基礎的研究を行う（大学研究者の参加を得て年3回以上開催し、情報交換を行う）	・行政文書研究会を3回実施した（うち1回はWEB）。当館収蔵特定歴史公文書の来歴について議論を深めた。	a		・基礎研究を引き続き外部有識者とともに進めていく	○館設定研究テーマの調査・研究 ・長野県行政文書研究会 長野県宝に指定されている当館所蔵特定歴史公文書の撮影を進める	・研究会は科研費をとって研究を進めることができた ・6年度は撮影を進めていきたい
		○長野県青年運動史研究会 当館所蔵「長野県連合青年団関係史料」を読解し、戦後の青年団運動等を系統的に研究することで、戦後地域民衆史の構築を図る（県内大学教員、図書館職員、アーキビスト等の参加を得て年3回以上開催し、史料調査を当館で実施）	・開館以来の未整理資料「県連合青年団」について、追加寄贈分の目録を作成した（令和5年度後期に公開）。また資料調査を計3ヶ所で実施（当館、飯田市、上田市）	a		・県史編纂事業の進展にあわせて現代史資料の整理公開を進める	○長野県青年運動史研究会 当館所蔵「長野県連合青年団関係史料」を読解し、戦後の青年団運動等を系統的に研究することで、戦後地域民衆史の構築を図る（県内大学教員、図書館職員、アーキビスト等の参加を得て年3回以上開催し、史料調査を当館で実施）	・研究会のネットワークを広げ、現代史資料の調査をさらに広げてほしい（研究者）
新たな長野県史の編纂に関する史資料の調査・収集	○長野県によって推進された戦前までを範囲とする「長野県史」を受け継いで、その後の長野県の歩みを明らかにする「長野県現代史」をはじめとする県史編纂のための史資料収集をします	○近現代資料の調査・収集 ・聞き取り調査計画的実施（3回）	・県史現代編に関して経済・社会の分野についての証言等、３件の調査を行なった	a	A		○近現代資料の調査・収集 ・聞き取り調査計画的実施（3回）	

［取組2-2］　県民の生涯学習を支援します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
展示解説の実施	○常設展示、企画展示など、展示を企画した学芸員が、展示のねらいや内容についてわかりやすく解説します。	○常設展示室たより「資料が語る」の作成 ・展示替え、新展示に合わせて、随時作成	・展示替え、新展示に合わせて「資料が語る」（12本）を作成	a	A		○常設展示室たより「資料が語る」の作成 ・展示替え、新展示に合わせて、随時作成	
		○展示解説・ギャラリートークの実施 ・解説希望の学校・団体　満足度80%以上 ※新型コロナ対応のため、すべての講座で参加人数制限、事前申込制を継続 ・企画展講演会　開催3回　延べ240人　満足度80%以上	・新型コロナ対応において十分なリスク管理を行った上で、学校・団体解説を実施　（177校）満足度98.4%	a			○展示解説・ギャラリートークの実施 ・解説希望の学校・団体　満足度80%以上 ・企画展講演会　開催3回　延べ240人　満足度80%以上	

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
講演会・講座等の開催	○企画展講演会及び講座(県立歴史館講座、考古学講座、古文書講座)を開催します。	○県立歴史館講座の開催 ・開催4回　満足度80%以上 （県立歴史館で行う講座はR6年度までにすべて県立歴史館講座に改称）	・４回開催 受講者数282人 満足度 91.3%	a	A		○県立歴史館講座の開催 ・開催７回　満足度80%以上	・歴史史料から歴史を読み解く大切さを深く理解できました。（笹本特別館長「所蔵史料に見る戦国時代の信濃」） ・古墳についての深く厚みのあるお話が聞けて興味深く学ばせていただきました。（西山克己氏「シナノから科野、そして信濃へ」） ・中国、九州、近畿、信州との文化のつながりや流れが具体的に分かり楽しかった。（町田勝則「赤い土器のクニ」）
		○考古学講座の開催、探訪会の実施 ・講座開催5回　特設講座開催3回　満足度80%以上 （考古学講座はR6年度から県立歴史館講座に統合）	・考古学講座：テーマ『わが町自慢の古墳～実はスゴい！長野県の古墳～』5回、特設3回「文化財を未来へ伝える～木製品の保存処理～」受講者計429人 満足度97% ・探訪会はオンライン配信	a		考古学講座はR6年度から県立歴史館講座に統合 特設考古学講座は考古学体験講座に改称 ティーンズ考古学講座の新規開催	○考古学体験講座　開催3回、ティーンズ考古学講座の開催　満足度80%以上	古墳をテーマとした考古学講座は市町村職員も担当したことにより当該地の古墳へ訪れる人数が増えた。
		○古文書講座の開催 ・開催25回　延べ受講者600人　満足度80%以上 ・動画コンテンツの拡充	・25回開催 受講者延べ765人 満足度95.5%	a		・新たに古文書入門講座を3月に実施し、次年度へつながる橋渡しをしたい。	○古文書講座の開催 ・開催25回　延べ受講者600人　満足度80%以上 ・幅広い層の参加ができるような取り組みをおこなう。	・丁寧に読んで丁寧に解説してもらった ・当時の生活や世の中が理解できる内容でよかった ・くせ字ではなくノーマルな字にしてほしい
		○ティーンズ古文書講座の開催 ・開催2回　受講者5人　満足度80%以上	・2回開催 受講者延べ9人 満足度100%	a		・学生への呼びかけを行い広い層の参加を促す。	○ティーンズ古文書講座の開催 ・開催2回　受講者5人　満足度80%以上	・県外から参加したが、とても楽しみにしてきた。内容が良かった。もっとアピールして大勢の人に知ってもらえれば。
		○古文書フォローアップ講座の開催 ・開催2回　延べ100人　満足度80%以上	・2回開催 受講者94人 満足度96.1%	a		・引き続き、受講生の興味関心を持続させ次年度へつなげる取組として継続	○古文書フォローアップ講座の開催 ・開催2回　延べ100人　満足度80%以上	・落語の内容と古文書がリンクしていて楽しかった。もっと勉強してみたいと思う。
各種出版物の発行	○ブックレット、研究紀要、史料目録、企画展・常設展図録、館たよりなどを発行します。	○計画に従い各種出版物の発行 ・ブックレット：「学芸員が語る 長野県立歴史館所蔵品選」第4巻の発行（館蔵資料の一品を学芸員が選定し執筆。ジャンル別に4巻構成　年1回発行） ・今後の発行について内容を検討する	・ブックレット信濃の風土と歴史28「学芸員が語る 長野県立歴史館の所蔵品選」第4巻 - 近現代歴史資料編 - を発行	a	A	・春季展の図録を兼ねることとする。	○計画に従い各種出版物の発行 ・ブックレット：春季展（所蔵品展）の図録を兼ねることとする。年1回発行、32巻まで） ・早めの推進を心掛ける	
		・研究紀要：1冊発行 ・今後Web版として発行することも研究する。	・研究紀要第30号発行（Web版）	a		・引き続きWeb版で発行する。	・Web版での発行	
		・企画展図録：夏季・秋季・冬季企画展における図録発行	・夏季、秋季、冬季企画展にそれぞれにおいて図録を発行	a			・企画展図録：夏季・秋季・冬季企画展における図録発行	図録を見ながら展示物を見ることができよかったです。
		・館だより、催しもの案内（館だより年4回、催しもの案内年1回発行）	・館だより年4回	a		・催し物案内は作成しない。	・館だよりの発行（年4回発行）　・年度始めに４回発行分の業者を決定する。	
体験学習の実施	○各種体験学習を開発し実施します。	○体験学習の教材開発と実施 ・新たな体験メニューの開発「じっくり常設展」「歴史館資料体験」「企画展」「バックヤードのDVD・保存処理」	・夏季企画展にかかわり数種類の子ども向けクイズを作成した。イラストを多く加えたり、形式を工夫したりして興味を持ってもらえるよう心掛けた。 ・冬季企画展にかかわり、展示資料にかかわるデザインの商品（プラ板マスコット）を作成した。 「バックヤードのDVD・保存処理」の活用開始	a	A	・課内で案を出し合い、工夫して実施していきたい。	○体験学習の教材開発と実施 ・各企画展の内容にかかわらせて実施 ・学校見学の中で実施	

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

［取組2-3］　学校教育を支援します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
学校教育への協力・連携	○小中高校の総合的学習や社会科授業、大学の教養科目等の一環として歴史館を積極的に活用してもらえるようにします。 ○博物館実習をはじめとする大学教育との連携を図ります。	○学校見学時の施設案内の実施・満足度80%以上 ・学校見学への対応について、今まで以上に見学者目線に立って改善工夫を行う。	・満足度「大いに満足」が75.6%、「満足」が22.8%で98.4%が満足	a	A	・「探究の時間」を新設し、より学校の要望に応えられるように改善した。	○学校見学時の施設案内の実施・満足度80%以上 ・学校見学への対応について、今まで以上に見学者目線に立って改善工夫を行う。	・家の中は地面が再現されていてとても面白かったです。昔の人の生活や気持ちもわかってきました ・縄文時代から昭和時代まで長野県で何があったかいろいろ知れてよかった ・たくさんの展示品があって面白かった。歴史に詳しくなれました ・歴史が前より好きになりました。
		○小・中・高・大学等での出前授業 ・依頼に応じて対応	・出前授業の依頼に対応した	a			○小・中・高・大学等での出前授業 ・依頼に応じて対応	
		○博物館実習の受入 ・参加人数上限10名まで受入れ	・博物館実習8人 希望者受入率100%超 令和6年（2024）8月22日(木)～9月3日(火)　10日間	a			○博物館実習の受入 ・参加人数上限10名まで受入れ	・地元で博物館実習を行うことができ、改めて長野県の歴史について考えることができた。 ・地元に戻り、貢献したいと考えるようになった。
職場体験の受け入れ	○中学、高校、大学での職場体験事業（インターンシップ）の受け入れを行い、生徒に博物館業務を体験してもらい、博物館・文書館等への認識を深める機会を設けます。	○職場体験学習の受入 ・希望者の100%受入れ	・中、高生職場体験 4校17人100%受入	a	A		○職場体験学習の受入 ・希望者の100%受入れ	・体験でかかわったのは一部分の仕事だけだと思うが、職員は気持ちを込めて仕事をしていた。自分の仕事を大切にしているのだなと思った。
教育実施・研修協力の	○県教育委員会等の依頼により、教員対象の研修会を行い、博学連携を深めます。	○教員研修（総合教育センター研修）への協力、実施 ・希望者の100%受入れ（最大14名）	・教材研究研修（県総合教育センター）12人参加。	a	A		○教員研修（総合教育センター研修）への協力、実施 ・希望者の100%受入れ（最大20名）	ただ授業で用語を並べるのではなく教師がピンときた資料を自分の授業にどう置換していくかが大切なのだということを痛感した。

長野県立歴史館中長期目標（2020-2029年）に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
- A　目標を上回る成果をあげた
- B　ほぼ目標は達成した
- C　目標には及ばなかった
- D　目標には遠く及ばなかった

［取組2-4］　歴史情報を提供します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
館史資料の閲覧	○考古資料 文献史料 図書資料等を閲覧できるようにします。	○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知 　ブログ公開10回	・整理が終了した古文書等の公開 整理を終えた古文書群は直ちに公開手続を取り、ホームページ上でその都度データ更新を実施 公開件数129点、公開度100% ・古文書公開ブログ 2回更新、新資料の情報を積極的に公開	b	B	・引き続き情報発信に力を入れる	○史資料の閲覧 ・整理が終了した古文書等の公開を進め、公開情報をホームページ、ブログ等に掲載、周知 　Xやブログの更新10回	
		・整理・収納した考古資料の公開を進める。閲覧依頼については事前調整を行い、閲覧可能資料には100%対応	・考古資料の閲覧22件 100%対応	a			・整理・収納した考古資料の公開を進める。閲覧依頼については事前調整を行い、閲覧可能資料には100%対応	
		・図書資料は、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録を進める（年度内受入図書資料の100%登録）	・受入図書資料登録 100%	a			・図書資料は、寄贈、購入等の手続き終了次第閲覧可能となるよう登録を進める（年度内受入図書資料の100%登録）	
レファレンスへの対応	○県民等からの質問に的確に対応し、歴史情報を提供します。	○レファレンスに対する的確な対応 ・レファレンス対応100%実施 ・必要に応じレファレンス内容を共有	・レファレンス対応100%実施 ・レファレンス内容の共有	a	A	・レファレンス内容の共有化をより充実させる。	○レファレンスに対する的確な対応 ・レファレンス対応100%実施 ・必要に応じレファレンス内容を共有	
ホームページの充実	○歴史情報提供の有力な手段の一つとして誰もが活用できるように、使いやすさに配慮したホームページを充実させます。	○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加（前年度比100%以上）	・アクセス数 92,517件（R4：95,832件前年度比96.5%）	b	B		○ホームページによる情報提供 ・アクセス数の増加（前年度比100%以上）	
		・開、閉館情報や来館者へのお知らせなど、時宜に応じて発信	・情報発信回数66回 ・ブログ更新回数10回	a			・開、閉館情報や来館者へのお知らせなど、時宜に応じて発信	
		・デジタルアーカイブページについて、利用者の促進を図るよう、表示の改善を随時行う	デジタルアーカイブページの利用者促進策について、職員にアンケートを行い改善点を抽出した。	a			・デジタルアーカイブページについて、利用者の促進を図るための改善策について、具体的に検討に入る。	
歴史情報システムの整備	○館蔵史資料情報をデータベース化し、ホームページ等を通じて的確に情報提供します。	○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 デジタル化した発掘調査記録写真のデータベース化の継続。情報提供方法等の検討	・考古資料 発掘調査記録写真のデータベースの情報提供方法等の方針を決定	a	A	データベース化は館DXのひとつとして公開に向けて整備する	○歴史情報のデータベース化の推進 ・考古資料 デジタル化した発掘調査記録写真のデータベース化を継続し、方針に沿った本格運用に向けて準備する	
		・文献史料　古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムへ登録、翻刻した文書を掲載	・文献史料 古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムに129点登録	a			・文献史料　古文書等の目録をデータベース化し、歴史情報システムへ登録、翻刻した文書を掲載	
マスコミ等による歴史情報の発信	○広く歴史情報を県民に伝えるために、マスコミ等により積極的に情報を発信します。	○マスコミによる歴史館情報の発信 ・信濃毎日新聞連載「しなの歴史再見」への寄稿	・新聞コラム「しなの歴史再見」（信濃毎日新聞）53回掲載	a	A	・30周年に向け広報の基本方針を設け、計画を立てた。それに従って実施していきたい。	○マスコミによる歴史館情報の発信 ・信濃毎日新聞連載「しなの歴史再見」への寄稿・信濃毎日新聞千曲市局記者による連載・開館記念日前後に合わせた県立歴史館のPR記事の掲載を促す。	・信濃毎日新聞のコラムやイベント欄を見ての問い合わせや申し込みが何件かある。
		・企画展、講座等の情報発信（新聞、情報誌等への掲載）	・新聞コラム「学芸員のおススメ！！」（読売新聞）8回掲載 ・新聞イベント欄、新聞有料広告、雑誌、情報誌、ケーブルテレビ有線放送等で企画展・講座等の情報発信実施	a		（同上）	・企画展、講座等の情報発信（新聞、情報誌等への掲載）	
		・長野県ケーブルテレビジョン連盟による主催講座の発信	・長野県ケーブルテレビジョン連盟による主催講座の撮影、放映実施	a		（同上）	・長野県ケーブルテレビジョン連盟による主催講座の発信	
常設展示室での情報機器による提供	○メイン展示、周辺展示を補い、必要な歴史情報を提供できるようにします。	○ICTの新たな活用方法の検討 ・DXに対応したコンテンツの構築（本年度）	・QRコードによる情報提供 ・ウェブアプリを含めた新しいコンテンツの検討を継続	a	A		○ICTの新たな活用方法の検討 ・DXに対応したコンテンツの構築	

【基本目標３】　楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします

［取組3-1］　楽しむことができる場とします

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
子どもが楽しみながら歴史を体感できる空間の提供	○子どもたちが歴史を楽しみながら体感し、遊びを通して学ぶことのできる空間を提供します。 ○親子や家族で語らい世代間のコミュニケーションを促進する場や機会を提供します。	○親子映画会の開催	・親子映画会は4回開催　延べ677名	a	A		○親子映画会の開催	・「楽しく見させていただきました。」
		○体験イベントの開催 ・こどもの日・夏休み・クリスマスリースづくりは継続実施、そのほか企業協賛日等イベント実施	・体験イベント４回実施 *「歴史館でこどもの日」 351 人（クイズにチャレンジ207人・プラ板マスコットづくり144人） *「歴史館で夏休み」 211人(クイズにチャレンジ 118人・どきmoドキ93人） *「縄文風クリスマスリースを作ろう」29人 *「ＫＯＡの日関連イベント　プラ板マスコットづくり」 42人	a			○体験イベントの開催 ・こどもの日・夏休み・クリスマスリースづくりは継続実施、そのほか企業協賛日等イベント実施	・時代の流れ順に展示、説明が細かにされていて、何回来てもその都度勉強になります。今回の様なイベントもまたやってください。子どもがあきずに見ていたので、また来たい。」と話して帰られる方がおられた。（クリスマスリースづくりアンケートから）。

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

[取組3-2]　人が交流でき、憩える場とします

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
来館者、ボランティア、館職員等の交流の実現	○展示を観覧する、講座を受講するなどの受動的なあり方を転換し、来館者同士、あるいは来館者とボランティア・館職員が気軽に交流する場や機会を提供します。	○コロナが終息した際には、来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場提供を少しずつ始めていく ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流促進	・解説ボランティア 新型コロナ状況に合わせ、声のかけ方や解説方法を工夫して実施 ・体験ボランティア 新型コロナ対応をしながら、イベント時にプラ板づくりなど活動 ・作業ボランティア 従来の古文書等整理、木器保存処理、図書整理のボランティアに合計で84名が登録	a	A		○来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流の場を提供する ・体験イベント等における来館者同士、来館者とボランティア・館職員の交流を促進する	
憩える場の環境整備	○観覧の合間に休息できる空間や施設、そして自然環境を満喫して憩いの空間となる屋外展示を充実します。	○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ	・老木となった屋外展示の樹木の剪定や落下した枯れ枝の除去を、職員が日を決めて実施。表示の整備・更新が課題として残る。	a	A		○屋外展示の充実 ・通路の整備、清掃 ・各時代別植栽の手入れ　・樹木別のキャプションの研究	

[取組3-3]　県民が参加した館の運営を進めます

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
館の史資料を活用した自主学習会の育成	○県民参加の歴史館運営の一環として、館蔵史資料を使った愛好会活動が行える環境を整えます。	○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数　延べ500人	・参加者数 延べ 672人 館蔵文書を読む会8回開催 参加者39人（延べ268人） 古文書探訪会(安曇野方面) 参加者23人 古文書演習　夏季5回参加者26人（延べ 90人）冬季18回参加者 30人（延べ291人）	a	A		○古文書愛好会の育成と活動支援 ・参加者数　延べ500人	・安曇野市の文書館で古文書整理ボランティアの方たちとの交流ができてとてもよかった（参加者）
		・古文書解読文を1冊刊行	*古文書解読文「松代藩御番頭岩崎旧書留」「松代藩御用人岩崎主馬書留」刊行	a			・古文書解読文を1冊刊行	・総会講演会での講師がさっそく活用してくれておりうれしかった（参加者）
ボランティアの育成	○展示案内、体験学習、史資料整理・保存などの館活動へ主体的に参加するボランティアを育成し、ともに活動します。	○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験・作業ボランティアの募集・養成を行い、館運営への活用を推進	・歴史館HP、チラシ（当館設置）により募集 新規登録者13人	a	A		○運営サポートボランティアの育成 ・展示解説・体験・作業ボランティアの募集・養成を行い、館運営への活用を推進	
			・解説ボランティア 毎週日曜日と祝日、イベント時(全60回)に実施し18名参加	a				
			・体験ボランティア「歴史館で子どもの日」「歴史館で夏休み」 企業協賛「KOAの日」にプラ板やどきmoドキづくり、クリスマスリースづくり、親子映画会に延べ50名参加	a				
			・作業ボランティア 343回　（木器処理87回、文献整理215回、図書整理41回） 展示解説研修会に２名希望あり参加	a				
利用者の意見を反映した館の運営	○館の運営に、アンケート等により寄せられた意見を反映させていきます。	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケート意見の反映させる ・ホームページ問合せフォームによる意見募集	・常設展、企画展、講演会等について、来館者の記述式のアンケートを実施 ・来館のきっかけとなった情報媒体を調査するため、全企画展で開催時にシール式のアンケートを実施 ・昨年度に引き続き、市町村別の来館者数を把握した。	a	A	・課内で情報共有を行った。 ・職員に回覧し情報共有を行った。 ・企画展のアンケート結果は、企画展報告の中に含め、分析した。	○利用者アンケートの活用 ・来館者アンケート意見の反映させる ・ホームページ問合せフォームによる意見募集 ・ＱＲコード形式のアンケート導入	・アンケートを壺に入れるという発想は面白くて好きです。

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

【基本目標４】　県内全域での活動を推進し、地域に貢献する活動を進めます

[取組4-1]　県内全域の県民の生涯学習、子どもたちの歴史学習を支援します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
出前講座等の実施	○歴史館から離れた地域の博物館等へ館職員が伺い、館主催の講座を開催します。 ○県内全域の博物館等からの依頼に応じ、講演会等を行うために職員を派遣します。	○出前講座等の開催 ・「県立歴史館出前講座」として、箕輪町・大桑村と連携し講座を開催　満足度80%以上	・信州学出前講座２回開講 聴講者数計43人 満足度85% （箕輪34人、大桑9人） 新型コロナ対応で各自治体とも人数を制限して実施。各講座ともに定員を80名で募集した。	a	A		○出前講座等の開催 ・「県立歴史館出前講座」として、箕輪町・大桑村・諏訪市・中川村と連携し講座を開催　満足度80%以上	
		・上記以外の出前講座　講師派遣依頼要請の90%以上実施	・依頼要請に対する実施率100%実施	a			・上記以外の出前講座　講師派遣依頼要請の90%以上実施	
出前実授業等	○歴史館から離れた地域の学校・公民館と連携し、館職員が貴重な史資料とともに赴いて授業を行います。 ○県内全域の学校（小・中・高校や大学等）からの依頼に応じて授業を行うために職員を派遣します。	○お出かけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曽地域に加え、諏訪地域も対象に追加　７回開催	・実施した学校数1校2講座、公民館数3館3講座、実施人数106名。実施計画を立案し、上伊那、下伊那、木曽、諏訪地方の小中学校、公民館に広報活動を行った。	b	B		○お出かけ歴史館事業の実施 ・伊那・木曽地域に加え、諏訪地域も対象に追加　７回開催	
		○出前授業の実施 ・学校からの出前授業　要請の90%以上実施	要請がなかったため未実施となった	—	—		○出前授業の実施 ・学校からの出前授業　要請の90%以上実施	

[取組4-2]　地域活性化につながる情報発信を進めます

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
地域活性化につながる情報発信	○積極的な情報発信による地域の活性化に寄与します。	○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信 ・県内地域に所在する文化財等を調査・研究、展示等を活用した情報発信	・R7開催予定の「安曇野展」につき、調査・研究。	a	A		○地域の活性化に寄与する積極的な情報発信 ・R6開催予定の「所蔵品展　原始」につき、市町村職員と遺跡・遺物の学習会を実施する。	
		・常設展・企画展における県内市町村所蔵資料等の借用・展示	・地元、千曲市の所蔵資料を展示した。十日町市立博物館所蔵の「火焔土器」と当館所蔵の長野県の縄文土器を相互貸借し双方の集客を推進した。	a			・常設展・企画展における県内市町村所蔵資料等の借用・展示	

[取組4-3]　地域課題を捉えた調査研究を推進します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
地域課題・研究の課題	○県の関係部局、県内外の博物館等と連携して、地域課題・地域文化の調査・研究を行います。	○歴史的水害を伝える史料の活用研究会への調査協力、連携 ・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」（山浦直人当館名誉学芸員が立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会）との連携・調査協力	・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」との連携を行い、展示「絵図地図でみる千曲川の移り変わり」を行い、山浦直人名誉学芸員による解説も行った（6/14～24）　観覧者約200名	a	A		○歴史的水害を伝える史料の活用研究会への調査協力、連携 ・「歴史的水害を伝える史料の活用研究会」（山浦直人当館名誉学芸員が立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会）との連携・調査協力	
		・学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会との連携・調査協力	・図面資料のデジタル化の成果（DVD）を関係者に配布した。	a			・学芸員が中心となって立ち上げた河川絵図を調査し活用する研究会）との連携・調査協力	

【基本目標５】　県内博物館・文書館の中核、歴史情報の拠点としての役割を充実させます

[取組5-1]　県内外諸機関との連携を進めます

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
県内外の博物館等との連携	○県内博物館・文書館等の中核として県内外の博物館等との連携を進め、史資料の収集・整理・保存及び調査・研究、情報共有等の活動を充実させます。	○県内外博物館等との連携 ・R6開催予定の川中島の戦い展に向け群馬県立歴史博物館、山梨県考古博物館、新潟県立歴史博物館との連携推進	・長野県博物館等関係職員研修会を開催し、考古品（鉄製品・木製品）の処理・保存の実務、刀剣類の保存と手入れの研修。参加人数51名参加。	a	B		○県内外博物館等との連携 ・R6開催予定の川中島の戦い展に向け群馬県立歴史博物館、山梨県考古博物館、新潟県立歴史博物館との連携推進	
		○長野県博物館協議会、長野県史料保存活用協議会の運営 ・県博協HP運用、加盟館のイベントを発信 ・県史料協メールマガジンによる情報発信（8回以上）、県外流出文書の情報共有	・県博物館協議会HPを運営し、情報発信を行った。 ・県史料協メールマガジンを６回発行した。	b			○長野県博物館協議会、長野県史料保存活用協議会の運営 ・県博協HP運用、加盟館のイベントを発信 ・県史料協メールマガジンによる情報発信（６回）、県外流出文書の情報共有	
県内外の諸機関等との連携	○県の関係部局はもちろんのこと、県内外の関係諸機関と連携して活動します。	・近世史セミナー（信濃史学会 信州近世史ｾﾐﾅｰ共催）1回 ・考古学セミナー（長野県考古学会との共催）２回程度	・近世史セミナー：12/2開催 受講者40人 ・考古学セミナー：１回開催 ①5/21遺跡報告会：受講者50人、満足度100%	b	B	・考古学セミナーについては共催する長野県考古学会等と発表時間等について事前打合せで課題を共有する。	・近世史セミナー（信濃史学会 信州近世史ｾﾐﾅｰ共催）1回 ・考古学セミナー（長野県考古学会との共催）1回	考古学セミナー ・博物館のバックヤードで行われる保存処理作業の重要性を認識できた。 ・貴重な資料に実際に触れる体験ができてよかった。
		・歴史館企業協賛の日　年2回開催	・「ＫＯＡの日」：1/20開催（無料公開） 入館者（常設）195人（企画展）285人、上伊那広域連合ツアー34人 ・映画「シルク時空をこえて」上映2日117人	a			・歴史館企業協賛の日　年2回開催	
		・須坂市との連携協定の一環として「須坂市民の日」（11/19）を設定し、須坂関係史料の特別公開、市民向けの施設案内などを実施する。	・須坂市と自治体2例目となる連携協定を締結 。その一環として「須坂市民の日」（11/19）を設定し、須坂関係史料の特別公開、解説ボランティアによる市民向けの施設案内などを実施 須坂市民123人来館	a			・須坂市との連携協定の一環として「須坂市民の日」（11/23）を設定し、須坂関係史料の特別公開、市民向けの施設案内などを実施する。	
県内外の歴史情報の収集	歴史情報(県内市町村資料情報、県内外歴史雑誌等情報)を収集し集約します。	○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査員からの県内市町村資料情報の収集100件	・資料調査員から情報収集 HPで公開 県内市町村史資料情報68件、出版情報36件、歴史情報75件	a	A		○歴史情報の積極的な収集、集約 ・資料調査員からの県内市町村資料情報の収集100件	
		・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの90%以上登録	・県内外歴史関係雑誌772冊収集、掲載内容を閲覧システムへ登録	a			・県内外歴史雑誌等の収集及び掲載内容の閲覧システムへの90%以上登録	

長野県立歴史館中長期目標(2020-2029年)に基づく
令和5年度事業に係る実施状況・自己評価　及び 令和6年度事業に係る実施計画及び目標設定

資料２

評価の区分
A　目標を上回る成果をあげた
B　ほぼ目標は達成した
C　目標には及ばなかった
D　目標には遠く及ばなかった

［取組5-2］　県内歴史情報のデータベース化・デジタルアーカイブを推進します

	基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
県内歴史情報のデータベース化	○集約した県内の歴史情報をデータベース化し、関係機関と共有します。	○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化・資料調査員からの市町村資料情報をデータベース化	・資料調査員から収集した県内市町村史資料情報・歴史情報172件をデータベース化し、活用できるよう当館HPに掲載、公開 ・県内古墳の一覧表を作成、夏季企画展図録に収録し、データベース化への準備を行った。	a	A		○集約した県内歴史情報のデータベース化、共有化・資料調査員からの市町村資料情報をデータベース化	
県内歴史情報のデジタルアーカイブの推進	○データベース化した県内の歴史情報のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブにまとめます。	○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる	・考古資料：発掘調査関係写真のデジタル化 3375枚 ・文献史料：収集古文書のマイクロフィルム情報のPDF化1184件	a	A	・考古資料のデータベース化・デジタルアーカイブの推進	○データベース化した歴史情報のデジタル・アーカイブ作成 ・館内史資料のデジタル化を進め、デジタル・アーカイブとしてまとめる。 ・マイクロ撮影は予算の範囲内でできる件数をすすめる。	
インターネットを活用した情報の提供	○データベース化、デジタル化した県内の歴史情報をインターネットを活用して提供します。	○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供 ・デジタルアーカイブページの表示改善	・新規追加デジタルアーカイブ「長野県内出土土偶」運用開始	a	A		○ホームページなどによるデータベース・デジタルアーカイブの提供 ・デジタルアーカイブページの表示改善	
		・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加（前年比100%以上）	・デジタルアーカイブページアクセス数　67,938件（R4 9,395件前年度比723%） ※利用者数については、各ページ（ライブラリー・スペシャルコンテンツ）の閲覧数を集計しているが、R5ではブラウザの集計方法に変更が生じたため大幅に数が伸びている（管理業者説明）。 ※R5.7以降は「ページ閲覧数」の上位25項目に含まれる該当ページの集計となる。	a			・ホームページ内デジタルアーカイブ利用数の増加（前年比100%以上）	

【基本目標６】　来館者及び職員の安全・安心を第一とした館運営を行います

基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
社会情勢に応じ、来館者及び職員の安全・安心の確保に努めます。	○適切な感染防止策の継続 ・５類感染症に変更後も引き続き、基本的感染対策（手指衛生、検温、展示室等でのマスク着用等）の呼びかけ、座席数制限（ただし基準緩和）等を実施 ・最新の情報収集、状況変化に応じた対応策の検討など、安全管理のマネジメントを適切に行う。	・県の感染警戒レベルに随時対応した細やかな感染防止対策の実施	a	A	・R5.5.8の新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付け変更（５類感染症に変更）後も適切に対応した。	○安全管理の実施 ・最新の情報収集、状況変化に応じた対応策の検討など、安全管理のマネジメントを適切に行う。	

【基本目標７】　館の将来を見据え、魅力度向上を図るための新たな取組を推進します

基本目標に対する取組	令和５年度　主な事業・取組 ／ 目標値	令和５年度　達成値	自己評価		R5反省、R6改善点・取組方針等	令和６年度　主な事業・取組 ／ 目標値	《参考》利用者の声（R5ｱﾝｹｰﾄ等）
県立歴史館のリニューアルに向けた検討を進めます。	○県立歴史館リニューアルの方策案の検討・とりまとめ ・施設・設備の長寿命化の実施に向け、具体的な施設の現状把握及び対応策検討を進める。（R8県ファシリティマネジメント基本計画見直しを目途に、その個別計画への掲載を目指す。） ・常設展示の現状と課題、リニューアルの考え方・イメージの集約を行う。 ・文化財・生涯学習課と課題の共有を図る。	・全職員（グループ分け）による意見交換会を実施 館の基本理念、施設設備及び展示の改善をテーマとして意見交換を実施 ・館内の施設の不具合状況について調査を行い一覧表にまとめる	a	A	・館職員による意見交換の結果をもとに、さらに現状把握及び改善策の検討を具体化する必要がある。	○県立歴史館リニューアルの方策案の検討・とりまとめ ・施設・設備の長寿命化の実施に向け、具体的な施設の現状把握及び対応策検討を進める。（R8県ファシリティマネジメント基本計画見直しを目途に、その個別計画への掲載を目指す。） ・常設展示の現状と課題、リニューアルの考え方・イメージの集約を行う。 ・文化振興課と課題の共有を図る。	
博物館機能強化のための独自の対応を実践します。	○博物館機能向上の取組の充実 学芸員チームを効果的に活用し、館の課題の検討・解決に取り組み、魅力ある博物館の構築に努める	・館独自組織「博物館機能向上学芸員チーム」を立ち上げ、委員会等から出された６つの案件を審議してそのすべてに回答を出すとともに５回の研修を実施した。当初の目的どおり、部課長会と密接に連携しつつ学芸分野の諸活動に関して学芸員の専門的見地から解決策や考え方を提示することにより、当館におけるシンクタンク機能を果たすことができた。	a	A	・さらに実効ある取組にしていきたい。	○博物館機能向上の取組の充実 学芸員チームを効果的に活用し、館の課題の検討・解決に取り組み、魅力ある博物館の構築に努める	
県民歴史館の事業をご活用いただく取組を推進します	○館のアウトリーチ活動の一環として、館の取組を情報提供・発信し、県民や市町村等を支援する取組を積極的に推進する。	・館で提供可能な支援メニュー（講演・講座、古文書受入れ、資料化学分析、地域展示）について新たに案内チラシを作成・周知	a	A	・歴史・考古資料に関する地域の展示会を支援に関するチラシを作成。	○館のアウトリーチ活動の一環として、館で提供可能なメニューを情報提供・発信し、県民や市町村等を支援する取組を積極的に推進する。	